

令和8年 第2回 定例会

令和8年第1回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第1回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますのでご照覧ください。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。

5月12日、13日、東京都で開催された「全国道路利用者会議定時総会」並びに「道路整備促進期成同盟会全国協議会通常総会」及び「命と暮らしを守る道づくり全国大会」にそれぞれ出席し、総会決議、大会決議をもとに、令和9年度の北海道の道路整備や道路予算の確保等について、道内選出の国会議員や国土交通省などに要望を行いました。

5月14日、壮瞥町として、北海道胆振総合振興局に対し、道道洞爺湖登別線サンパレス工区の整備促進、有珠山外環状線の整備として、道道滝之町伊達線の橋梁架け替え、道道洞爺公園洞爺線の整備について、要望を行いました。

6月1日、室蘭地方総合開発期成会として、室蘭開発建設部、胆振総合振興局に対し、令和9年度の国費等の要望を行いました。

本町としましては、国道453号久保内交差点改良の整備促進、道道洞爺湖登別線サンパレス工区の整備促進、有珠山外環状線の整備として、道道滝之町伊達線の橋梁架け替えと道路整備について要望を行いました。

なお、当日は森議長のご同行をいただいております。

6月4日、全国高速道路建設協議会総会に出席し、総会后、道内選出の国会議員及び国土交通省に対し、令和9年度北海道の高規格道路の整備促進に関する要望を行いました。西胆振地方としましては、暫定2車線の4車線化について要望を行いました。

行政報告

はじめに、長流川（壮瞥町）水害タイムラインの検討状況についてご報告申し上げます。

タイムラインは、災害発生の想定に基づく「いつ、誰が、何をするか」を時系列でまとめた「事前防災行動計画」ですが、昨年11月に引き続き、今年の2月25日、26日に東京大学大学院 松尾一郎 客員教授のほか有識者、関係機関、関係自治会長の方々による検討会を実施しました。

1日目は松尾教授による講演会や関係自治会長の方々との意見交換会、2日目は、有識者のほか関係機関、町職員参加の下、災害の各段階における行動概要の検討を行いました。

今後は、行動骨子案作成に向けて、関係機関や、住民の皆さまのご参加、ご協力を得ながら検討を継続してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、自治会長会議についてご報告申し上げます。

5月21日、18人の自治会長と前田敏 行政相談委員にご出席をいただき、地域交流センター山美湖で開催いたしました。

はじめに、自治会長を3年以上にわたり務めていただいた方に感謝状と記念品の贈呈を行った後、令和8年度の主な事業や財政状況などについて説明し、意見交換を行いました。いただいたご意見等は、今後の行政運営の参考とさせていただきます。

次に、国勢調査の速報値についてご報告申し上げます。

国勢調査は、統計法に基づき、5年に一度実施されており、この度、5月29日に北海道が公表した速報値では、令和7年（2025年）10月1日現在の当町の人口は、2,349人で、前回調査から394人、14.4%の減少となり、医療機関の町外移転による影響もあり、胆振管内ではもっとも高い減少率となっております。

今回の調査では、道内179市町村のうち95%にあたる170市町村で人口が減少しており、人口減対策は、道内市町村の共通の課題ですが、国勢調査の人口は、地方交付税の算定の基準にもなることから、今後、これまで行ってきた施策に加え、第5次まちづくり総合計画に基づき移住・定住の促進に向けた総合的な施策の充実を図

り、人口減対策に取り組んでいく考えであります。

次に「地域安全を確保するための空家等対策に関する協定」の締結についてご報告申し上げます。

5月1日、伊達警察署において、空家を狙った犯罪が増加傾向にあることから、伊達警察署と、伊達市、洞爺湖町、豊浦町、壮瞥町の各自治体間で、「1市3町における地域安全を確保するための空家等対策に関する協定」を締結いたしました。

この協定に基づき、伊達警察署と空家に関する情報を共有することにより、防犯対策を推進し犯罪を未然に防止して、町民の皆さまの安全で安心な暮らしの確保に寄与するものと考えております。

次に、地域経済の状況についてご報告申し上げます。

令和7年度、本町の観光入込客数は、176万7千人で、前年比98.5%となり、このうち宿泊客数は、30万5千人で、前年比99.5%となり、前年度とほぼ同水準となりました。

長引く物価高騰、国際情勢の不安定化の中にもありましても、堅調に推移しており、これもひとえに、事業者の皆さまのご尽力や、圏域で取り組む誘客の成果と認識しており、町では引き続き、誘客と魅力ある観光地づくりを推進する考えです。

次に、道の駅そうべつ情報館の機能拡充についてご報告申し上げます。

令和7年度に、地方創生第2世代交付金を活用し、そうべつ情報館の売り場面積と喫茶厨房の拡充を実施し、4月からリニューアルいたしました。

新たな特産品の展開や販売促進などに期待しているところでございます。

町では、今後も、より利用しやすい道の駅になるよう、国の施策や財源を活用し、計画的に機能強化を進めてまいる考えです。

次に、第28回中学生フィンランド国派遣（海外研修）事業結団式についてご報告申し上げます。

5月25日、地域交流センター山美湖で、中学生フィンランド国派遣（海外研修）事業の結団式を開催しました。

結団式は、平成5年5月22日に締結した友好都市宣言から、長きにわたる壮瞥町とケミヤルヴィ市との友好関係の歴史と交流について認識を深め、参加意識の高揚と、親善大使として、その役割を果たすことなどを目的として開催されています。

今年度は8月4日から11日まで、中学生28人、引率者6人の計34人を派遣し、ケミヤルヴィ市では3泊4日のホームステイを予定しております。

また、今回の派遣には、去年のケミヤルヴィ市長の来町を受け、「次代へつなげる新たな交流の基盤づくり」と「ケミヤルヴィ市との友好都市関係を感じるまちづくり」をテーマに町民派遣団を同日程で派遣することとしております。

派遣団は、町や議会の代表と商工関係者からなる8人で構成され、ケミヤルヴィ市との協議や市内の企業視察等が予定されており、このたびの派遣がケミヤルヴィ市と壮瞥町にとって、友好親善を深める意義ある機会になることを期待しております。

以上、令和8年第1回定例会以降における町政の主なものについてご報告いたします。